



行書  
也斯之  
日記



曾  
1  
795  
210

羣書類後卷第三百せ一上

檢校保己一集

日記部二

業式部日記



秋乃よりひれ主すに寺門廻り有る處  
ちんあられくわく池のわづりれ柏とを  
水はきの寺村とのうちきつまほほ大  
おひきもえんすりわりくらざれて不附の  
はきほの事へれぬさりけりやうく  
風乃くじよしよ例の波立ちぬらかきかん  
すりゆすりのんすらおおにともそりようぬ

今りうれよお宿すらとくに  
あやまつす月とすくらむとさうされく  
えをかくらとほすりお省みかのゆきりふ  
あすとれとくはせおもくらひにくわるねま  
とくとくのアツヘアリけきてう所心  
をなれもくへんくくまく月とすく  
はと月とあやまつもくとおゆよくの月  
墨あおトとくにまほにあく一ぬいりや  
お官にいきりふりく人アミとくと  
りひくうかと小後取れ縫うりねわく  
みまんのひすく時くと月秋むくとく

あそたる体修れ在くをくちくははれ  
きらほとれく  
鉢慶 修山さんあらのきいよりせ人の体修とく  
わをほからあう洋とあらはははは  
院源 けひひやくわはははははははは  
とく身ちーは修都のやみのれとくらは  
なはははははははははははははは  
けひひやくわははははははははは  
あそりしろいとくとくやまひてうとく

人をまうつまくにあまねことなは戸  
くちれつわひにまくとほのうちうきあ  
ああの病もゆれりぬふすうりをだ  
道長  
えまんりてんり水りけとぼと  
くみのむかとみかとめのゆく  
きとねむとむひてあすれうとうり  
のそかせびつゆるゆりゆりゆりゆ  
ト我羽うねぬひらむきとあたとく  
てくちわくんのゆすらまよとくとく  
とろとととととと  
かかむせむとみかにゆのつけとくとく

わがまほなまくとまつまく  
ぬ病いはまくとまくとまくとまくと  
あやめらう言ふ審おのまみぬくもの  
やうりとわくとまくとまくとまくと  
戸内あまくわくとまくとまくとまくと  
かくわくとまくとまくとまくとまくと  
まくとまくとまくとまくとまくとまく  
まくとまくとまくとまくとまくとまく  
まくとまくとまくとまくとまくとまく

わちまむねとおひらへゆき、かくも  
はまのうじゆりひめうつもありそむく  
はれしにあとのすじわとひりすくも有  
いわふとはゆゆりひこゆき  
行成塔  
ある日あらうるはアラシはまてここんだ  
あすくらむへてかしけれやめぐく  
をすりたるはとあ水みかたを務めく  
れ國のあらは清掃をぬかるすきの衆を駆  
あらまともおおほりとそのはい人こぞと  
宵カリゆくわゆりハとを那須久  
やまとくはくまおわからむあけろ

うきのすこすれうくはと清  
はくすくあそひけくはとふえのあゆくは  
あくにまく人まくはまわくもい  
やく秋とくすくすくはねあくわく  
あちまくすくすくはなま相中將經房彦房  
齊信  
あくわくわくわくはなま相中將經房彦房  
もあくわくわくはなまとねわくわくはな  
あんさくをはなまとねわくわくはな  
あくわくわくとねわくわくはなまと  
よまくはなまとねわくわくはなまと  
うてくわくはなまとねわくわくはなまと





とありひやうれかんや  
わまくをかうわうゑてゆふよ月の夜も  
かあらそらぬいあ  
えくわにりふくらまくらくしもむす  
素わらねゆ下れん  
房よりはとひてまくね行かくやうの女  
きづくゆり人ふゆしやうね一もひとひ  
ま川をひくらきあすとよてけ  
すんとあつがりのあくわうみ  
かほんとれは便せ候たのれりゐく  
すうせんのりきびくもりとよひ

てあづり山へたかくとくせかく夜ふむを  
るゆりはまちつてつみうきこせねぢま  
しゆせ丁あらひ下りやくじゆぢよ平  
よ人そほかくよまはわくうけりよ  
まうらきもおうきをまわううそ地をね  
くねやまくらうくうゆのり人ふ中くわくも  
うきするまくすくまねの地をくらんが  
たまよナの咲くわのつまくニ下  
からてもうけようくせすくまくとえ  
えりけりの日本下さくわくねれり

ます傍らまくらふきりわじとくは  
とあらひてかおアリテ院源アツカミ  
サムカトシテ御書小竹ナシテ  
モカスムリテトムカタケツキアキレニ  
のまつあはまたキアキレニ  
カトカマリルテトムカタケツキアキレニ  
トマサシテホムのたまくちつも  
トマサシテヒカツルカタケツキアキレニ  
カマサシテヒカツルカタケツキアキレニ  
人富むわくシカツヒヤウカタケツキアキレニ

あされりよすんとすあ東ねしてより  
ウを渡してまわせ西江あひてこの二まちも  
とまつまくぬのうへまねて家を落  
くらむだやぬけ本丁アリテにわらうそ  
うの京三井寺の因徳のまみもゆい  
まきうやめよう月よりうとほふき  
朱ふくらむとまもまくと君やねゆくがくふ  
ア一さ小かくは人に大納言をこむるの  
京あれありすれ内は中務は京たりふ  
比翁ぬろ式教のゆくほのせんとよと  
年魚のうぐいすのうじと心とゆく

きまくらのゆきりのむねのふま  
スギやうわがれほれとたまふをい  
ケハシムヒツヨウのゆめあひ  
カタマリのちてはまうりゆめ  
のけりさうめのれとみ内侍の  
喜ふ  
がくめの<sup>咸</sup>喜びの<sup>喜</sup>喜びの<sup>喜</sup>  
衣のあらまふの<sup>咸</sup>喜びの<sup>喜</sup>喜びの<sup>喜</sup>  
みちゆゆらううのゆのりえらりとえ人  
もととくゆりりひかわんにはうめ  
がくすも石川角桂と宗相中將  
よひに佐のりわまくらやくはく  
多く石室相中將経房主おち丈  
舟居

傍を従ひ今一下もとゆくめど向へ  
ありわざとちる人全ハ居て人少す  
やうにゆきやれの志の左近牛將よ君あ  
まきてうれゆるゆと後化板其人含ひ  
ゆりぬ室賴定れとの事あゆるゆ  
ゆう一さんすゑ嘯かわばくわくうそ  
ちとゆきりと波よぢくねきとえりと  
てあゆくさん人をりんみえら  
ゆきのゆきうらゆ江うちゆく  
りゆきがよけうゆていうゆせん  
ゆきとそのえりゆう人をりんみ

來てよりまことにすむ事ありて

あそと月きてとおとどる人ふるを  
ううてはうとう年が節まえられて

あく日めくゆるる花と多きかよわ  
しゆそわれもれたひとあたひと後一條

みりへわりゆけりうちんりいがわを  
きくんびらうわとくにさのやとね  
すねりれむか店かくみがありあま  
はやすしりまくらまくらゆひきれ人ふ  
カシムキヌツアリハナホラ度を  
うすあくとくとくせ渡みて月めうす

やう徳はくいめりくよめくとす  
くとひはる宿のあせびとくとく  
やくれくまうりくめくとくとく  
ゆくゆくとくりほくゆのまうとくとく  
かくとくけりとくとく人のまくとく  
たわやくとくとくとくとくとくとく  
ひりひねくわくとくとくとくとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ゆくゆくとくとくとくとくとくとくとく  
はつとくとくとくとくとくとくとくとく

りのとまめをりよひまくはせ  
後てりはうれりの后ま水つらる  
の多い人ふれりにてもうちもまつん  
のうふらふすとあんぐら今ましん  
ときをひきひかむらにとまつたまふ  
とあはれもあはうけりとへうけ  
れまうけのあうけりうけりと  
まがる右寧相中將<sup>兼隆</sup>權中納  
主てあいのすとこみる後て肉もとま  
りとく、ひまうけに中ねもとけくまとの  
そくはうひうるはとめり肉も

たちかかとまのりよねりとすゆうり  
とぬをうえう勞りよ海りかともなひも  
うたはうれりその紙へあうけちう  
けい稿へ往つまゆれのとやまうまゆ  
しらうふとまのとあまんせり  
とくまうふとゆくゆ中<sup>宗時</sup>の相はうむ  
すあく人の事のとくゆめあはうめ  
のくよもうきあ<sup>當色</sup>じてゆめモリ  
うめゆけすとるたのとくゆめあく  
ゆくとくゆれりとちう川まつよ

うひのむくわらかう  
仲信

仲  
信

うひのをさむるあらわすまみやれとて  
あらふる川仲信ニシテこのゑぬくゆう  
はまとうめくわくやく二天大きしよくも  
あらわくわくかくりだもかくねまくわ  
てあらふくわくゆひあくわくうつとは  
くわく  
じくの太納言君深通すをすくとあ  
まくわくすまゆてふれけりまは後  
にまくわくすまゆてふれけりまは後  
のくら實乃角海部けくわくはまくわく  
かくまくのくわくもはうよくとく  
すわくみわくはくまくわくわく  
うがくわくまくわくわくわく  
秋志布村海部まくわくとくとく  
川くらあくやくまくわくとくとく  
うがくわくまくわくわく  
てんぐくよくわくわく  
ときいきくわくわく  
わね飛渡身たてくわくわく  
ちちお宿頼通おとくわくわく  
わくわくとくとく  
なう字地海部うんくわく  
ちちお宿頼通おとくわくわく  
わくわくとくとく

力の如人ナカツリテ文シムラサガ姫人每  
ひら廣業ナリテち探乃ミトニアリテ史記ノ一  
久んとすじ強ナリセ人五位十人六位十人  
あくまみナリテモナリテモナリテモナリテ  
ありてえありてえありてえありてえ  
ミナリ也ぬれもとけりやううと  
ちんに浮るし致時  
奉候する下舉周スナリサルヒ支那文帝  
ナリトヨトシれら拂拂士内ナリヤマキシテ  
ヨリヨリ月の里里ナリタケルアラタ  
ト小人ナリヤナリタニタニアシタリ揭焉

にありて是ニシテ以テナリハナドレヌム  
外カヤモソ成お月、キムヤナムヘ  
物ナリカクテアリヤナリニタリ壁  
はいりあリテウリテ次第ナリ  
却んカノキイの所ナリトモゆめり人  
トヒトニハ乞アヌル所ナリナリナリ  
所候ナリナリナリトモナリ中ナリ  
トナリトモナリナリナリナリナリナリ  
ナリナリナリナリナリナリナリナリ

すよかあ、かきほりあやうひのと  
ちかんもあつてゐるわらひたが  
わやうけ、かねる  
あうるから、かくはれ  
とひあはせきうやうきも山に  
とうとうひのやうだ  
ゆりわのわ  
ゆく人のふらわゆりひとく  
ゆくわ  
うねのゆひのゆくけふまわ  
ふとくちう  
う家のゆひめふちううの  
はと

身をあわせねどもあらぬ人からみえ  
てはあらうけりありあらうとを思ふ  
がまのあらりやほくまうんもおお  
あらひきえ上を郊野をかどりそ  
二行ふものむすにあら人のほけと  
よきりゆくわやのゆるやくねくとせり  
れすよそてうちとにきそりたり  
るお根ハ敵のゆくゆくかひ十五の月  
くもゆくねくねくゆくゆくゆくゆく  
ちうわくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
つ年またたてりてくわやくにあら  
おのゆんはくわくくくはまとをと  
ぬまちわくゆくくあらゆくらりゆく  
ちうひもとくあらゆくゆくゆくゆく  
りこれとがまくあらゆくゆくゆく  
まとととととととととととととと  
かりふを牛れえりてれりとたると  
とうまにとくとくとくとくとくと  
にとくとくとくとくとくとくとく  
ゆてあらうりんとがまくゆくゆく  
とあらねととととととととと

あらうりとありらうひそか  
のうゆてはにあひあがれりわもの  
アリと女房八久ひうよだきくじて  
かあるもろくもとせうくあうかん  
えをほれふかまひのううかひされ  
肉ねりこのりうくあやわや  
あらうかしゆむり下さるみのうう  
市うちもあらうゆううわくと相  
りときうかくうめうくいとほにけ  
しもああああか女房八源式部かのじゆ  
小鷦こじや道みち小き清きよな鶴つるお浦うらなとくぬ  
大おじま鷦こじや小こ鷦こじやのすす小こ鷦こじや人ひと小こ  
本もとの鷦こじやのすす小こ鷦こじや人ひと小こ  
人のかうりにてゆひひけわまうりに  
しとひとみかひうてゆうまうとたの  
あらうとくわみあくふうとくすとがく  
おうとくとくわみうとくとくすとがく  
一とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
に卅さんよ人ひと庄重じゆう事こと人ひといわくとひとくと  
のねうとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

て又おれもひまにあくあくやうやく一病

ひよそつりすぐりとあくまく月をく

ゆなまにうねぬりひづくをくあきと

まよあくまくひづくはゆりふくあきと

闇日

うづくまづくやのりのりやうしね

とあそかうりうるにあくうじとくわ

くわんさくわくわくわくわくわく

わくわくわくわくわくわくわくわく

うよがねのりぢり 早にとおれかすけ  
うらうりとまつとまつわる人すりそひの取のゆ  
あがめのりあらとおれりとくよみをぬり あわせ  
あるれ侍のまよしゆゆゆやうゆとあわせ  
てゆちうううううううううううううう  
としむゆかくとあがめシと本音と  
いきまもととく  
はよ上生れ宿とたうくゆくはよ  
えりうれしん取とめきりく様うり  
絶ふ紙のあくせひやくまくわく  
さとありぬ肩さく肩をとあらわきりく  
がくへまくらへくらへ  
所ト紀元月中元月はおのくらうもちくも  
に條大納言中元小竹ひづんやく歌といまう物を  
あくつうひよひひうつううううう  
ううやく小すとにれて取ひくゆきを  
くもと上を歌はせうわゆうせくにけそ  
ゆじつやそひゆくゆくとおにけそ  
一かきゆくはくゆくゆくゆくゆく  
永月中元お月沙く、沙く、沙く、沙く、沙く、沙く、  
まよ人舟小舟てりまきりなま

おつまより毛根すらりにまくせんとまくや  
うきいあらわやくこまうれくもの小まくゆ  
或教ある本は仕にわきちキホセ小春小萬  
むすやすひいひと人人<sup>人</sup>けちくわくら  
と左寧相中將後中ねうほかく小まくゆ  
猿ひく左寧お中ねうほかく小まくゆ  
ちてあくびとほよあくべす角りゆくぬ  
里そゆくふまほやゆくわくえ  
却けりわくりゆくゆくらく底小月のむくり  
けむらくらくあいあくびとねくえ  
わのうらしよ車あくまわくまくりよ  
うく人をすうきちく病とくめもと  
往命ぬ病かねるおゆひ下の病ぬと  
病婦ちくさんぬ命婦とほ病婦とくと  
病えぬくりくうくうぬ人をくもれ  
くもれけんかゆるの人にとくとくのと  
うのとくとくとくとくとくのとく  
もぐくにぎ、さねけいもくやとくゆくゆ  
やくかくひき人かね道経とけつしきて物  
のうりくかくゆくあくやくいもくに入く  
ゆくまくやうてく一猪の勸學院前院も

見參





えふるのゆ  
れりてく  
ねがのり  
れまく  
ゆか  
れとあ  
はたそ  
りかゆく  
れあ  
れかけ  
小あ  
ひりふら  
めぐら

水もとをかくす原さん紙も浮きあせぬ  
やまもとくらべてあくびをかきとめ  
りくらべてかんぢあくびをかきとめ  
ぬりゑれあくみととせたるはく  
りくらべてはいひよりくととせたるはく  
えもじゆうわくわんこあくみと  
まゆあくみとあくみとあくみと

内侍れんりきあらゆるに付く人されば皆  
外をもいひてゆるのへ渡すと即ち嘔  
がねの君アシテ御身御子をあらうを  
つるをす彼のまつとも日をあんと  
あらえらもあらひてあらざれど  
もとく一とゆく人ふけんそふりとこ  
うんじゆらわふるはの事とせつを  
うなづりまゐりにゆうじくへま  
あれあくよとゆそくうふすとくとが  
よらざれまかがやまけよをの  
りてゆくゆくゆくゆくゆく  
のとくおもせにうひをあわせ  
かまうああてゆやすけふうあくみ  
ゆはのゆゆりてにふまうとあうひ  
えれみの底あんかゆふゆゆと  
たちせらゆ同一くゆるさんありにわ  
きまふまはふまむくのはアにかくま  
神ゆる事あらゆる事あらゆる事  
すと渡とをく一川あまく内侍二入川  
あひ日ひかあをうめりやはくかをと  
おけみかわらやうわう鳥のうげ  
ゆくらまようりりのあくます

そこれも身とへん多くもぬ領巾裾帶浮線綾絞櫻きしもとは  
まんにそぞりありうふまはまくせむへういゆ  
ひぐれあるはくはくとそれ、いさくうはく  
まことじをあわせりりりもやうふまけはく  
けは内はくすくはくもこまがるふえひく  
おおきうまうまはくまわくまねいまわく  
ねりとくいりやくわくわくちの人の  
川ゆきますこすりみきるそくくふ  
かくみえからあふきうりけりりそくはく  
けりらきくらわらまくはく棟あふうちあんをめられ  
やすにとくはくわくうきわくうじあ

あすくまくまんとまくこだすもせくや  
らまくまくとまくわくはくはくつまくはく  
つまくまくはく身はく中持けとく  
をくまくまく肉ゆくつまくまくの中とくまく  
せまくまくふされまく人くはくのまくらわく  
りくわあはくあはく地もくのまくのまくはくを  
しりくまくちりくまくちりくまくまくしりく  
まくわくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく



さうあをかくすとまゆをさんせんじゆく中  
にすくれたまくわがむとせのうれよき  
やかねどりうのゆふあだうけとまふ  
産ぬゑ人ハトのゆはひゆあゆか  
二入産ぬ二人やまうれしれ人ひりやのま  
りうちちくさんたまのわりれをくあを  
あ内ほりいとるがすめたりうりとちい  
川ときよりえ天安すり店あくまらよ  
柳のひさんぢくれらくせんと葉はふへま  
かくおもひまなみありきるうりわよう歌  
桶産あくりのうれいあはあやり英  
すれまくおうりまくうれいあひゆ  
ちやあとだりけらかれかくゆがりもみ  
えく敵まくえりゆにまうらくねくねく小  
まうらくゆまくまくまくまくまくまく  
まうあう房持、ゆふゆふわく、年寧相  
のまゆかくまくまくまくまくまくまく  
れ中とまく行ふまくまくまくまくまく  
さわまはれりゆふゆゆゆゆゆゆ  
てらとまくまくまくまくまくまくまく  
てつまくまくまくまくまくまくまく  
あくまくまくまくまくまくまくまく



万葉樂三事あらわんまきをせむと  
リやへにしるすよしの鳥公佐めぢく万葉い  
うく木林示やもろこみますすああれ  
かわいとのわらとみる西日絶よとあるそ  
りゆわありとゆりむりへんかくさる  
あらわゆりくらわゆりあひかげに  
絶よとくわれく清うるはれりもるを  
りゆわとあけと敵アガハアリヘリとまがりよ  
うへりと清くおの、おととあに等アガ  
まとうてかくわふまつて角カタめの日々  
えまかくわり加賀カガす以アガてあふりと美と  
りせぬりとあ  
う代アサの上を渡門つまてねーたそもる  
猿アマ小簫尔かアマヤヒカアマハアマ列アマなら  
清アマはうりけりと清アマ別アマ南アマにいまなむ  
省アマ大言アマれ多アマすあらひアマす  
齊信同人  
佐後寧相アマつらアマは人アマ床アマ宿アマてあらひアマす  
にりと清アマて往アマちあらひとゆけれ  
くよ肉アマけやつひ羽アマ寝アマまれねよ  
ちのうらかすみそくしてくらりよりよう  
あまきはアマてせひをすらはせまにひま

此後とて又の日あはれの月別萬代と今  
あまし元乃てももくらうの宿てもほんを宿  
おほきにわざうりはうせうひとくす  
ゆめきた事とありてはまくけられ  
ありまゐつてゆりとおはなされ  
くくまうとほりけやとのうりあひてあを  
まそれあひうとあうじうきそりとく  
せまほにわいとまくわまれとくれとくれ月  
ゆとあくとくにあれすけやんにあひと  
そりわざわらよとひもあいとちやんふや  
あくねあらの口うりをゆくものせりひよ  
めき人のとくをあうけとくあわせあ  
ひれはくをあわかうつわひが  
りよつてくにとくとくあひとく  
宿寧相中  
はくによりくゆくわねかくわみと  
あきとねすやくとくわくとくとくとく  
あまかうにやくねくわくわくわく  
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく





とす。まづはあくまでもおもてのよせん  
うめをうけてくるがうじゆにわざい  
れはまことにわざうしてからゆく  
う角川わざくわとりをそそぐれま  
あうりておけする人うちけをあそぼ大  
納戸の本室相あみこかねのまつ白  
とあるむすりおれふくらむとゆふ下わ  
うびにむちりみゆきをほよげますにま  
とほくうふきあらひまきはくらむ  
りきよ。あくまでもおれはむだりよち  
あうけうりてまむきにつけうじゆ  
えむひくはあきしむゆくりねきとゆふ  
りおれ。そのつまつまかんの  
そくに本府よ禁高木のたゞ  
くちわく(珍)けに人うちくわりな  
ひの下年れとあるけくわくともあはう  
やまくわくわくひゆくりうくわくともりま  
りうくわくわくひゆくりうくわくともりま  
うわくわくわくひゆくりうくわくともりま  
うわくわくわくひゆくりうくわくともりま

の口うらにあらじまじめやうめりふさうれ  
むすよ深氏よわくとく人そはねふう  
うへよどていふくまのうだんをやわくと  
え産のすりかりきよまきねしわが小侍の  
の寧相うちて内れわくわくす後も  
おもそたちとそねくちゆうけりま  
權中納言詔みのよのうにせんにようあ  
えびのめりくもううひそにじるありと  
ておも友ひくあくわくうかくくの  
ひもひくうもとくわくうかくくの  
くえくよしひめりくわくくのくくくの  
わくくにあくさんあり寧れ中將を入  
ておはあくされくあくくまくわくうわ  
みわくくをくもとくくくくをばくくわ  
わくくわくくわくりとくくわくもくく  
つづくゆきりくわくくわくくわくくわ  
りくわくくわくくわくくわくくわくく  
いふくくがくくくくくくくくくく  
ありとくくくゆつまくわくくてくひくく  
せきおおくくくのなはとくく  
草うかがよもよのよおれおがくく  
くくくくくくくくくくくくくくくく







まへかへてあはれいふかく成らうと  
わらさんともあらうとくもんとこま  
とまくわいがれに中ちととけま  
とおほれがゆりしりもすと  
きゆくはうにありとど思ひゆりはと  
とまひくはんをかくやくにきてたり  
れでてよもとわねせよじふふ  
りそよぐとく地もゆくねりくふ  
きよもえゆさうりかくひすとと  
きくわくめくめよしめといひよふ  
りあらわむとつしつくわくめ人  
いねふく

くらすくらすくらすくらすくらす  
くらわくらわくらわくらわくらわ  
くらわくらわくらわくらわくらわ  
くらわくらわくらわくらわくらわ  
くらわくらわくらわくらわくらわ  
くらわくらわくらわくらわくらわ

おりおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおお





うかうかとまわるゝうち  
沙流すらけく／＼のうちれども  
ソレに／＼とまわるゝとれ／＼と連  
つゝうひ／＼あ／＼かはり／＼と連  
抄行成、こゝの／＼とて／＼とては難事於遠  
の半納行成、延縫とあり  
四／＼んとありてけり／＼とては  
底もねり／＼あ／＼みをこれ／＼と  
りとまづり／＼と小／＼とすをやう  
れり／＼今／＼とれり／＼の集  
か／＼とまづり／＼とすをやう  
え／＼とまづり／＼とすをやう  
か／＼とまづり／＼とすをやう  
え／＼とまづり／＼とすをやう

文政十三年庚寅冬十月十三日於砥用卿室之中村直衡

齊書類後卷第三百廿一下

檢校保已一集

日記部二

紫式部日記

文部ハ廿日小弟不侍後寧相承ゆハ既

兼隆

行成

此とすと川うりそ古寧中侍りむる小  
えう既りゆきあるけりとすけいあんとこ  
どもひよきれもの里てん紫柄はねと  
りもゆえだつにとく小ゆくわじ紫のと  
どもといふゆまちる泥とくわよ月あお  
アハシウムからむたてもくみゆかトそれく

あくゆうのまゝかのうへりて  
人のうへをあくえあたかがほとへの  
きぢりてにしきんもくわくと  
おがくらいさんじくすとお  
うきよをえしのあくちうとくわ明月の  
はくわくわくにねやみのよしわくのゆ  
まれそめくまみをえねうちくわ  
ゆくわくわくをうるをとく人を  
小れいきくまくはくわくわく  
らゆすゆくわくとくくまくわく  
せひ四よよせたとくくまくわく  
あけともひくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
宰相中ねうか  
祖流  
ひきうと人をあくわく  
相ありひうにいよめく  
りつて十人ありひうめすわくと  
えもとあるおのむくもくわくと

わざくらふをもどすはとむらそはう  
きくみえりてりふらねりあひと  
人手の事かとれと月はまひよ  
けふやまへんきられりとめりうあ  
いじきりゆあはとせら夜もくすり  
そむくまう春宮<sup>蓬佐</sup>  
やむれもと一りふた入をまつすお  
もくはいはくうりりともとまよひあ  
わくふくうへふわくせむて沙流すわ  
あねりよとくうはくわく常にゆ  
ゆふうりゆゆけとはまくにすひ  
あく扇りあひひとまうりゆひひわ  
こもゆゑまきゆまもすひつふわてゆ  
やくまとはり物とみえゆされ  
ゆるわく小扇り  
はくあくわくれりゆまくかくと  
たくをほくらゆまくあくゆまくかく  
扇はくとれりゆくとくとくゆふた  
うのうみかくそくらうけあくとわくとま  
せやくふくゆゆがくくゆくゆくゆく  
このはのまんゆりはまくわくとまくわ  
くとあるがすれりもくまくまく

わゆや行小かづらあらねまたよ津  
らそれのうづいづらそひとれく  
すりゆとすてそくまわとくとれく  
ゆくはあわくすい所りそくとれく  
あいがし川よとてそくとれく  
ゆくはきわまくとれく  
かくかく取りゆくとれく  
ウロトモトモとれく  
もうゆきちやうふもとれく  
おととよとれく  
に有とれく  
主ゆつとれく  
やうりひとれく  
人ふとれく  
まうらもとれく  
いきとれく  
わうめいとれく  
あまくとれく  
あまくとれく





麻子もわざとまわらすと云ふ  
リカレシとゆの事小ありて口  
浦川をかといゑひやうまきと云ひて口  
の事にてもやすう事いあくまよ  
ニモハサエリキトカホウガホウヒトツモ  
此ノトシ中納ミのゆ度はあうき家  
の者をもんとあらんと見えくわざれか  
川は先を多くんと見くわづけと云ふ  
よりのほりやねうとあそく月と下り入  
るうとねうとあそく女郎あれと家をもん  
かくはあそく下りるうと云ふ  
やくもかうう月ひらをもととわざりす  
内ヨリ出られたりひうちほくま  
小思  
かくもお祭事も祭事もやくじるはとくま  
のりまをうりにま  
かくもまちうねのこえ  
明子  
ゆうれでまをまくまとくらむにま  
けあゆけうりやうけすれわとがに  
えかくうみたまうりかくもニテ  
あゆやすひこま活すとやうれまの  
すもかくみゆうれでそこもれに





みよれよと今かにてはるとあはゆに  
おはすたくわのまへり  
ちくともかうをまもと小なりますと  
りてえまうんと内也とめきうふけ  
おもかうて二人ちあひ  
おもかせを  
ゆるまやれとくらむとゆうわれ  
おひひとおれすうりくとがくさりけとくま  
じく月ぢにほのくもかいてえ  
れまうひもきだらうとゆやがいとくら  
ゆるまうひとくらうとゆやがいとくら  
ちんちんとれ  
おあやうぢね  
自  
いあたまは敵とくとくとくとくとくとくとく  
とはりとあきてくらはうれりひあれ  
たのけとくらてにくらつてにくら  
あわせすとれとくとくとくとくとくとくとく  
きらめくとくとくとくとくとくとくとく  
多く人のおひえすじうひのまをりま  
おもひとりととくとくとくとくとくとくとく  
れまくとくとくとくとくとくとくとくとく

資業





れとすまう家めぐらはいひゆー室

相乃看輔正小燈之庭めぬくふりと

きみのぬかくさうかくさくにまく

うねくまくと度りてくらはまく

あをまことにいやすむとまく

ておとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

おけとしむぬゆうひのじゆけ  
えわくわくうじにあらてよお  
あそびはるかに人ふはれありりう  
ほんがんへんひつされそりふね  
じけとくそくははやまわいとくほ  
みをさあうふきとれくらふゆ  
おやゆく病りうく行ひぬううう  
あくいくまくまでにそあはりく人  
あくにまくでく人うりくえんまほ  
あくかくれ式教れおといとくわき  
りゆくけくとあえまる人ひえり  
あくにわくわくとくがくく  
うくわくもいがくく字めりくあく  
あくく下はくうひまくとく  
くまくゆくゆくまくれくまくわく  
まくとくくふゆくいづれく  
くまくけくうくうくあくまくわく  
まくわくうくうくあくまくわく  
思へる小なりよ深式教小多いわく  
わく人のやくまくわく今りくれゆ  
わくふりくとくとく作せうれくとく  
けよ一人よあまくうきとわくとわくはく

そゆりのまかあむね  
人やととみそにはあらうがととては不  
かく汝式教ときけよれやうひやう  
わざやうてわざうやう小尺教にいと  
お前へんにまされふありひあはく  
おどり小人へりすめとおれどちゆうを  
こき居重ねもいと清富にゆりせまく  
船と人へりはおはくをうとあまともどく  
うてはれると人をとよ  
ういきふうくれてとゆるか 実あわゆく  
をそくうぬふる一まれ事へり

ちくはれわくにあ筋子は  
ちくはれとくねびつや川て西  
竹原がまれりまにすとあまうてす  
ふとくもくもやうえとまの  
せひうきもあとつとあとだあまの  
キらる人ゆきよ中納みひをあひて  
アヒキサクサクうあめいちるあ  
リひいゆきはとた人のまくまくひ  
くうともあめいと見せりふくじくらう  
りかくもつよほくめくもみいまくを  
けまひゆく人一天もくらむてあら

くおれりあはせうあゆうわを  
ゆうにちてすゑゆうにわざうかう  
みはすてあそびてゆうとあくとよ入  
みゆれけはゆうひくはくはく  
ゆうは要ねる様なやうにゆうゆう  
ゆうて待たとゆういひがまんのを  
ゆうゆうゆう  
これ入すれてけうふゆくがゆ  
てくらふうくらやすとみなくする  
くはあくらふりとくわくく  
せねゆうそ多くけもゆう  
選子

仰うともかうあ流アシテ中將の君くは人  
ゆうを禁用ゆくまもくじゆて人のりふ  
ゆうふくみゆくみとくかく人くとくを  
ゆくゆくとくえんにうれりとせふは意の  
ゆくゆくゆくとくにうれりとせふは意の  
ゆくゆくゆくにすれり四ゆくうれり  
やけつとくゆくゆくゆくゆくゆく  
こをりよがくゆくゆくゆくゆくゆく  
秋ゆくのれりかくはく流ゆくおりゆく  
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく









川の水をさすにやまくらむ  
かくわうひんものいとくらむる  
有とあは更にいづれ  
とありけるひづれりへふるがほ  
わゆとわふとくはり  
心のよましにゆゆけり  
川のよりにゆゆせれども  
やまで表う洋へばゆれきひと  
もろくほれ人へゆくわゆく  
うりひうねとハシムれさく今か  
だくふあととくしめくわれと  
てれとくふのへ下うれりと  
あと内きくめくすくわりく行  
きゆきくえんくくくとつわせ  
ゆくわくわくわく  
まうんはりんくとてゆりてはれとゆ  
まううりんくまうれくまうれ  
れと物としきちあせはくとあく  
の人あつてらうにわがこじうれ  
人がいわくいすゆけぬれと五





とくにかきもとさうれたるひ入てまし  
そうちのうちほつてせんかありひらを  
うれは風か浦えタシれよわね  
いとくとくとかくれといあひくふい  
がくら人やあんぞお  
おゆうとこにうきと  
けれどりあくとくとくとくとくとくとく  
にまくわうんとくとくとくとくとくとく  
入てゆる日やうらちやうもとくとく  
けくわくわくわくわくわくわくわく

むりも衣衣あてゆうかわくらは  
ウタうひよかくれく川をなりひ  
あすかる事のがるもえどすし  
一叶すすりほきし月をなす  
はあそてる人すゆすみうじとく  
口とそにのね人すゆすみうじ  
せりとくと人衣とくとくとく  
つとせりとあおりわる時ひとくとく  
生とくとくと女房あ月とくとくとく  
ねすとくとくとくとくとくとくとく  
かうゆ真名あくいもしゆはゆとくとく  
人ハセリとくとくとくとくとくとく  
シモ物つとくとく人ハゆくまいのりが  
おとくとくとくとくとくとくとくとく  
門前くわくとく思ひくわくわくわく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとく





きくはやけにまづけのかちもほくは  
りひよくはとくはあひてほくはあいとは  
わりんにかくわくねくはくはくは  
よもんへとれとくはくはくはくは  
ひくうりへくはくはくはくは  
行すをひやくはくはくはくは  
とくはくはくはくはくはくは  
は飛はがくはくはくはくはくは  
ゆくはくはくはくはくはくは  
つまへはくはくはくはくはくは  
あいとくはくはくはくはくはくは  
ひくはくはくはくはくはくは  
さなはくはくはくはくはくは  
ねふくはくはくはくはくはくは  
あやくはくはくはくはくはくは  
えくはくはくはくはくはくはくは  
はくはくはくはくはくはくはくは  
あまくはくはくはくはくはくはくは  
日本紀とくよみ泣くはくはくはくは  
はくはくはくはくはくはくはくはくは





たまへんゆきもちるやいわ  
こくとみをかねてゆきこりはる  
あひなつらうにえむまほゆく  
おひゆくいやはばとさかく  
うれし文ゆかられてはる  
えよゆぬ不とえうきたじ  
うれしきとがあがりゆく  
かの人のうとれども  
ひあともといふりゆとはかとゆ

ておひがいとゆあづけのまへあ卯卯家を  
んとあづけすと二日あつよ里見わ  
せびり沙車にとせぬ人ト小み  
きてけとらむくとれよいたる  
様まつり放化とくとくとく  
なうはて大さん柄毛あいふか  
おやうとふとあくとくとくとく  
を取れわたりかて沙車すとくとく  
足とくとくとくとくとくとくとく  
れとくとくとくとくとくとくとく  
れとくとくとくとくとくとくとく

人あはれまじきにほんじてあらふ  
きみれいんうづくまほりふく  
りをたまひまくせんじたるも  
のゆらぎてよめくわざす  
あらゆるにさりとくわざす  
のたまは物あらうてわくふくまね  
りとおねまとい肉とかよあ  
きと月おわづか出てあやれふ  
老をとやうあるとあゆめられても  
りときどりわくわく

一

とて、彼の力もわざもあつた  
にしめられぬふへんあくまき  
方へる  
たまゆらの事は、まことにあ  
る

人をもれども身の度外事  
かくあらうるゝにあつて  
かくあらうるゝにあつて  
道長

あ  
まくはれ  
もゆふす  
うりにゆく

卷之三



蒙古文

後朱雀

おまかせする事なく、おまかせをすまう  
ういさんへまわりあんまりぬれ  
伊勢にかのまほ行ひ、うちあるひとく  
みほとまゆりぬりて年涉  
宿<sup>彩子</sup>のそらにけふてひそかにす  
ひまつりぬまくにまくじつわ  
とひまくまんじゆくまくまく  
れくれあこりゆきあだりゆく  
きゆくをうたはる、まよ小ねの  
むかすすすあくわ  
わんまく

毛を浴び入力日夕はあくらりやあく  
あらきとねくまつはあくらる行ひゆ  
かわもあわりて敵の力わくとほのふ  
ゑす中つてぬめのゆくうへのゆく  
えぬうそまめこりお婦うとおもてが  
いは人かれりぬまゆふうと二乃  
実れりと一月十日うち院子のにが  
ねうみみわをりそくあれくまうあた  
アリびんと被いわれりてわざらもぬ  
きうれつりひとひのよあひそくわみうけ  
くまふやまとすむじひよゆりてハ

木下りりとてとくにあうぬそりと  
経あみ小あぬ人とかくうくれとゆに  
くくされとあ伏せゆくとすまに  
かけとくかくすてきん日をきてゆけ  
わふかくはなさくされとくうおつうりうあ  
うのゆゑまなつすとおまゆへとおれ  
うへ人とナセ人そまのゆあてうづま  
り言れゆくうひと柏と庭と山門  
にとこまえ成れりうやふうるゆ





友と人とのよきのまゝあらまゐる所に  
まづぬぢ下へまへゆきかうけんらの明治  
こうくわせぬ約束ゆべし やもゆきよしや  
れんぐうへりはまくらの納入納付  
ことは往々約束の言わゆれまくら  
えくもゆけてもゆてあらたくほ  
にりの田の後外くふニシテハラモ  
れききよあく歌よそくうひきもしてうれ  
きうきよあすくすれかく曲  
わくゆくわくゆくわくゆくわくゆく  
わくゆくわくゆくわくゆくわくゆく

わくゆくわくゆくわくゆくわくゆく  
まくらをくらひの力りへひえゆうひどり  
まのあえ二もうへりよてくわくゆく

邦高親王

右以伏見殿邦高親王御筆之草書寫一校畢

右紫式部日記以唐代弘贊藏草書寫以流布御筆及後來  
拾葉集校正年

羣書類從卷第三百廿一下

文政十三庚寅年冬十月十五日於益城下郡  
礪用鄉写之畢

中村直道

